

第236回地震予知連絡会（令和4年8月29日）各機関からの提出議題

【1】気象庁

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 全国 M5.0 以上の地震と主な地震の発震機構

要旨：2022 年 5 月～7 月の全国の地震活動概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 日高地方東部の地震（7 月 5 日 M4.9）

(S) 青森県東方沖の地震（5 月 23 日 M5.6）

(S) 茨城県沖の地震（5 月 29 日 M5.3）

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(S) 茨城県南部の地震（5 月 5 日 M4.8）

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの地震活動

(S) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動

(S) 南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

(S) 紀伊半島北部から紀伊半島中部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（5 月 18 日～31 日）

(S) 四国東部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（4 月 30 日～5 月 10 日）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（6 月 4 日～5 日）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（6 月 14 日～19 日）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

（7 月 7 日～13 日、15 日～16 日）

(S) 四国東部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（7 月 25 日～29 日）

(S) 日向灘の地震（5 月 2 日 M5.0）

d. その他

(S) 父島近海の地震（6 月 21 日 M6.1）

4. その他の地殻活動等

(S) 日高地方東部の地震（5 月 22 日 M4.7）

(S) 宗谷地方北部の地震（6 月 20 日 M4.4）

(S) 宗谷海峡の地震（7 月 2 日 M5.9）

(O) 上川地方北部*の地震（8 月 11 日 M5.2、M5.4）※期間外

要旨：*気象庁が情報発表に用いた震央地名は〔宗谷地方北部〕である。

2022 年 8 月 11 日 00 時 53 分に上川地方北部の深さ 5km で M5.4 の地震（最大震度 5 強）が発生した。また、この地震の発生前の同日 00 時 35 分にほぼ同じ場所の深さ 2km で M5.2 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。これらの地震は、ともに地殻内で発生した。発震機構は、00 時 53 分に発生した地震が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型、00 時 35 分に発生した地震が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(S) 宮城県沖の地震（7 月 6 日 M5.4）

(S) 青森県三八上北地方の地震（7 月 22 日 M5.3）

(S) 福島県沖の地震（3 月 16 日からの地震活動）（最大規模の地震：3 月 16 日 M7.4）

（8 月 4 日 M5.6）※期間外

(O) 石川県能登地方の地震活動（最大規模の地震：2022 年 6 月 19 日 M5.4）

（6 月 19 日 M5.4、6 月 20 日 M5.0）

要旨：石川県能登地方では、2018 年頃から地震回数が増加傾向にあり、2020 年 12 月から地震活動が活発になり、2021 年 7 月頃からさらに活発になっている。最近もその傾向は継続している。活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2022 年 6 月 19 日 15 時 08 分に深さ 13km で発生した M5.4 の地震（最大震度 6 弱）である。この地震の発震機構（CMT 解）は北北西－南南

東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。また、6月20日10時31分に深さ14kmでM5.0の地震（最大震度5強）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。いずれの地震も地殻内で発生した。

(S) 東京都多摩東部の地震（5月3日 M4.6）

(O) 茨城県沖の地震（5月22日 M6.0）

要旨：2022年5月22日12時24分に茨城県沖の深さ5kmでM6.0の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は陸のプレートの地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は、東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

(S) 八丈島東方沖（5月17日からの地震活動）の地震（5月23日 M6.1）

(S) 3月31日からの京都府南部の地震活動（最大規模の地震：3月31日・5月2日 M4.4）

(S) 徳島県南部の地震（6月17日 M4.9）

(O) 熊本県熊本地方の地震（6月26日 M4.7）

要旨：2022年6月26日21時44分に熊本県熊本地方の深さ9kmでM4.7の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

(O) 沖縄本島北西沖の地震活動（最大規模の地震：3月17日・6月3日 M5.9）

要旨：沖縄本島北西沖では、2022年1月30日から地震活動が活発になり、その後消長を繰り返しながら継続している。活動の全期間を通じて、最大規模の地震は3月17日及び6月3日のM5.9の地震（いずれも最大震度2）、最大震度を観測した地震は3月30日のM5.5の地震（最大震度3）であった。この地震活動は、沖縄トラフの活動で陸のプレート内で発生している。

(S) 与那国島近海の地震（5月9日 M6.6）

(S) 台湾付近の地震（6月20日 M6.4）

(S) ペルー中部の地震（5月26日 Mw7.2）

(S) アフガニスタン南東部の地震（6月22日 Mw6.2）

(S) フィリピン諸島、ルソンの地震（7月27日 Mw7.0）

【2】国土地理院

1. 地殻活動の概況

b. 地殻変動

(O) GEONETによる全国の地殻水平変動

要旨：GEONETによるGNSS連続観測から求めた最近1年間及び3か月間の全国の水平地殻変動を報告する。

(O) GEONETによる2期間の地殻変動ベクトルの差

要旨：最近3か月間の水平方向の地殻変動について、1年前の同時期の水平変動ベクトルとの差を取って得られた非定常的な変動の概況を報告する。

(O) GNSS連続観測から推定した日本列島のひずみ変化

要旨：GNSSデータから推定した日本列島の最近1年間のひずみ変化の概況を報告する。

2. 東北地方太平洋沖地震関連

【東北地方太平洋沖地震後の地殻変動】

(O) 地殻変動ベクトル

要旨：東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積及び最近3か月間の変動の概況を報告する。

(O) GNSS連続観測時系列

要旨：東北地方太平洋沖地震後の東日本におけるGNSS連続観測の時系列の概況を報告する。

(S) 成分変位と速度グラフ

(O) 変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配（北海道～関東地方）

要旨：東北地方太平洋沖地震後のプレート間の固着状況の変化について、電子基準点の変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配によるモニタリングの概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(S) 伊豆半島・伊豆諸島の水平上下変動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

【森～掛川～御前崎間の上下変動】

- (S) 電子基準点の上下変動 水準測量と GNSS 連続観測
- (S) 高精度比高観測点の上下変動 水準測量と GNSS 連続観測
- (S) 高精度比高観測
- (O) 森～掛川～御前崎間の上下変動 水準測量
- (O) 水準点 2595 (御前崎市) の経年変化
- (S) 水準点 (140-1・2595) の経年変化
- (S) 掛川～御前崎間の各水準点の経年変化
- (S) 御前崎地方の上下変動 水準測量
- (S) 御前崎周辺 GNSS 連続観測時系列
- (S) 駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列
- (S) 東海地方の地殻変動
- (S) 東海地方の非定常地殻変動
- (S) 静岡県御前崎市～静岡市間の上下変動 (駿河地区)
- (O) 紀伊半島西部・四国東部の非定常水平地殻変動 (長期的 SSE)
要旨：2020 年夏頃から紀伊半島西部及び四国東部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動 GNSS で観測したので、その概況を報告する。
- (S) 紀伊半島 電子基準点の上下変動 水準測量と GNSS 連続観測
- (S) 南海トラフ周辺 GNSS 連続観測時系列
- (S) 南海トラフ沿いの地殻変動
- (S) 南海トラフ沿いの非定常地殻変動
- (O) 四国中部の非定常水平地殻変動 (短期的 SSE)
要旨：四国西部において、深部低周波微動と同期したスロースリップを GNSS データから推定したので、その概況を報告する。
- (O) 四国中部の非定常水平地殻変動 (長期的 SSE)
要旨：2019 年春頃から四国中部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。
- (S) 室戸岬周辺 電子基準点の上下変動 水準測量と GNSS 連続観測
- (O) 九州地域の非定常水平地殻変動 (長期的 SSE)
要旨：2020 年夏頃から九州地域において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

4. その他の地殻活動等

- (S) 加藤&津村 (1979) の解析方法による各験潮場の上下変動
- 【2022 年 8 月 11 日に発生した上川地方北部の地震】
 - (O) GNSS 連続観測時系列
- (S) 北海道太平洋岸 GNSS 連続観測時系列
- 【2022 年 5 月 22 日に発生した茨城県沖の地震】
 - (O) GNSS 連続観測時系列
- (S) 伊豆東部地区 GNSS 連続観測時系列
- (S) 伊豆諸島地区 GNSS 連続観測時系列
- 【2020 年 12 月以降の石川県能登地方の地震活動】
 - (O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列
要旨：地震活動期間の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。
 - (O) 「だいち 2 号」による SAR 干渉解析結果
要旨：「だいち 2 号」による SAR 干渉解析結果の概況を報告する。
- 【2022 年 6 月 26 日に発生した熊本県熊本地方の地震】
 - (O) GNSS 連続観測時系列
要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。
- 【沖縄本島北西沖の地震活動】
 - (O) GNSS 連続観測時系列
要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【2021年6月21日アフガニスタンの地震に伴う地殻変動】

(O) 「だいち2号」によるSAR干渉解析結果

要旨：だいち2号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

【3】北海道大学

【4】東北大学理学研究科・災害科学国際研究所

【5】東京大学地震研究所

【6】東京工業大学

【7】名古屋大学

【8】京都大学理学研究科・防災研究所

【9】九州大学

【10】鹿児島大学

【11】統計数理研究所

【12】防災科学技術研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺 (c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺)

(O) 日本周辺における浅部超低周波地震活動 (2022年5月~7月)

要旨：本解析において、期間内に掲載基準を満たす活動は検出されなかった。

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ周辺における最近の傾斜変動

(O) 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況 (2022年5月~7月)

要旨：短期的スロースリップイベントを伴う顕著な微動活動が、紀伊半島北部および南部において、5月19日から30日に発生した。これ以外の主な深部微動活動は、四国東部 (5月1日~11日、7月26日~30日)、四国中部 (6月15日~23日)、四国西部 (6月13日~17日) ならびに四国西部から豊後水道 (7月8日~16日) で観測された。

(O) 南海トラフ浅部の微動活動 (2022年5月~7月)

要旨：室戸沖 (5月4日から6日頃)、紀伊水道沖 (7月3日から4日頃)、潮岬沖 (7月13日から14日頃) に小規模な微動活動を観測した。

【13】産業技術総合研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 東海・伊豆地域における地下水等観測結果 (2022年5月~2022年7月)

(S) 紀伊半島~四国の地下水・歪観測結果 (2022年5月~2022年7月)

(S) 東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2022年5月~2022年7月)

4. その他の地殻活動等

(S) 神奈川県西部地域の地下水位観測 (2022年5月~2022年7月)

(S) 岐阜県東部の活断層周辺における地殻活動観測結果 (2022年5月~2022年7月)

(S) 近畿地域の地下水・歪観測結果 (2022年5月~2022年7月)

(S) 鳥取県における温泉水・地下水変化 (2022年2月~2022年7月)

【14】海上保安庁

2. 東北地方太平洋沖地震関連

- (S) 日本海溝沿いの海底地殻変動観測結果
- 3. プレート境界の固着状態とその変化
 - c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺
 - (S) 南海トラフ沿いの海底地殻変動観測結果

【15】 海洋研究開発機構

【16】 その他の機関

記載分類

(O) 口頭報告, (S) 資料提出のみ

1. 地殻活動の概況
 - a. 地震活動
 - b. 地殻変動
2. 東北地方太平洋沖地震関連
3. プレート境界の固着状態とその変化
 - a. 日本海溝・千島海溝周辺
 - b. 相模トラフ周辺・首都圏直下
 - c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺
 - d. その他
4. その他の地殻活動等